

上智大学ヨーロッパ研究所

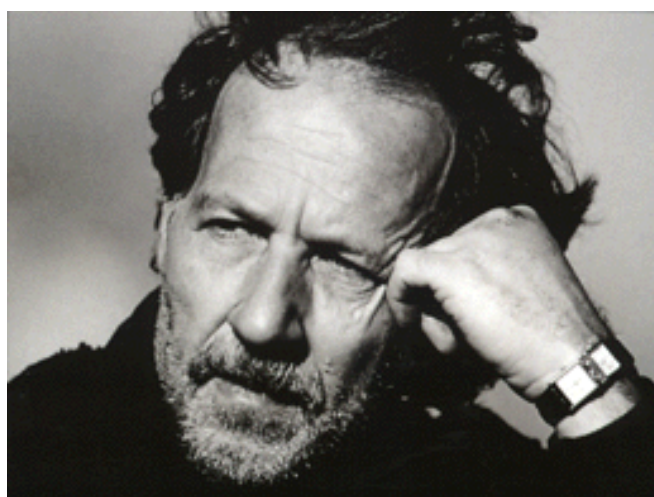
2011 映像ゼミナール 夏季

# ヴェルナー・ヘルツォーク

ドキュメンタリー傑作選

「未曾有の災害に挑むカメラ」

入場無料



2011年7月9日(土) 15時開場/ 15時30分開始 (~18時頃)

上智大学 中央図書館 9F L-921

上智大学ヨーロッパ研究所 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階  
Tel.&Fax.: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp

上智大学ヨーロッパ研究所

2011 映像ゼミナール 夏季

## ヴェルナー・ヘルツォーク～ドキュメンタリー傑作選 「未曾有の災害に挑むカメラ」

—— 解説： 渋谷哲也 氏（ドイツ映画研究）

日時： 2011年7月9日（土）15時開場/15時30分開始～18時ごろ.

会場： 上智大学 中央図書館 9F L-921 入場無料

2001年度夏季の映像ゼミナールでは東京国際大学の渋谷哲也（しぶたにてつや）氏を講師に迎えて、ドイツのニュー・ジャーマン・シネマを牽引してきたヴェルナー・ヘルツォークを特集します。ヘルツォークは、『アギーレ 神の怒り』（1972）、『カスパー・ハウザーの謎』（1974）、『フィッツカラルド』（1982）などで高い評価を獲得し、近年もハリウッドで『神に選ばれし無敵の男』（2001）や『戦場からの脱出』（2007）を制作するなど、現在も活躍を続けるドイツ人映画監督です。

つねに鮮烈なイメージを求めて地球上を旅する孤高の映像作家ヘルツォークが、自然災害および戦争被災地の中心部で撮影に挑み制作した珠玉の映像エッセイ2本を、渋谷氏の解説付きで上映いたします。報道ドキュメンタリーともフィクション映画とも違う独自のスタイルで、ほとんど神話的とも呼べる不可思議な空間が、そこでは展開されていきます。ドイツ語ナレーション英語字幕、日本語によるボイスオーバー・ナレーションで上映いたします。

上映後には渋谷氏によるトークセッション（「記録と眩惑—ヘルツォークのカメラ眼」）をおこないます。文明世界の彼岸を志向するヘルツォークの映画は、ときに人々の良識にも挑戦します。避難区域に敢えて足を踏み入れ、戦争被害を美的に描写していきますが、しかしそれらは同時に「現実」の記録に他なりません。現在危機の時代を迎えている日本で、ヘルツォークのまなざしについていま一度じっくり向き合ってみたいと思います。みなさま、ふるってご来場下さい。

## 上映作品情報：

- 『スフリエール火山 (La Soufrière)』 (1977) 44 分

監督：ヴェルナー・ヘルツォーク

撮影：エド・ラッハマン、イェルク・シュミット＝ライトヴァイン

カリブ海の仏領グアドループ島で大規模な火山噴火が予想され、住民は島外へ避難した。だが一人の農民が避難を拒んで島に残っているというニュースを知り、ヘルツォークは撮影クルーと共に島に上陸する。有毒の火山ガスがゴーストタウンと化した市街地に迫る。避けられない破滅を目前にして自然の猛威と人間の営みとの関係に迫る野心作。

- 『暗闇のレッスン (Lektionen im Finsternis)』 (1992) 52 分

(日本公開タイトル「問いかける焦土」)

監督：ヴェルナー・ヘルツォーク

撮影：サイモン・ヴェリー、ポール・ベリフ、ライナー・クラウスマン

編集：ライナー・シュタンケ

湾岸戦争の終結後、クエートで生じた大規模な油田火災の様子を取材に訪れたヘルツォークは、写真家ポール・ベリフと共にこの世のものとは思えない黙示録的な光景をカメラに収めた。至るところに残る戦争の傷跡。果敢に炎の柱と格闘する作業員。雄弁な映像に合わせて音楽とナレーションを交錯させた 13 章のレッスン。驚嘆すべき映像詩。

## ヴェルナー・ヘルツォーク略歴

1942 年 9 月 5 日ミュンヘンに生まれる。1962 年に短編映画を初監督。1968 年には初長編監督作『生の証明』でドイツ映画賞獲得。いわゆる「ニュー・ジャーマ・ンシネマ」の中でもっとも個性的な監督として現在まで作品を発表し続ける。劇映画とドキュメンタリーを共に撮り続け、近年ではアメリカ製作の作品が多い。最新作は 3D によるドキュメンタリー『忘れられた夢の洞窟』。

